

昭和57年度 和歌山県文化功労賞

こ むら てつ そう
古 村 徹 三

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：広島県

生 年：明治42年

◎業績及び経歴

小学4年の時の療養生活が契機となり、独学で児童文学を志し、北原白秋「赤い鳥」への数多い投稿がきっかけとなり同氏に師事。新進作家として作家活動に入り、童謡詩は、2,000点を数え、なかでも童謡唱歌「もみじ」の作詩で有名である。

童謡集としては「みかんの夢」、「お花のホテル」、「笑いの神さま」などがあり、日本児童文学者協会会員として全国的に活躍した。

戦後、子供に読み本が少ないことを痛感し、自ら「こども新聞」を毎月発刊し、昭和30年まで8ヶ年にわたり和歌山市内小学校で子供達の読書及び教材資料として活用された。また、和歌山市内の山東、山口、木本小学校等の校歌の作詩者でもある。

昭和52年、児童文学活動により、久留島武彦文化賞を受賞した。

また、児童福祉にも力を注ぎ、昭和23年から今日まで永年にわたり、和歌山県児童福祉審議会、和歌山県青少年問題協議会委員を務め、昭和38年、52年には厚生大臣表彰を受賞した。

また、昭和25年頃から中村貞以氏に師事し、院展入選20回を数え、県展、和歌山市展の審査員、県美術家協会理事を務めるとともに、和歌山県俳画協会会長として俳画の普及指導するなど広い分野で活躍された。